

野の仏ギャラリー ⑱

弥勒菩薩坐像

南多久町大字下多久

光背と坐像が一体化して造られ、別造りの大きな蓮華台があります。頭部に文様のある宝冠を載せ、顔は面長で半眼にしています。胸飾りと腕飾りをつけ、天衣が肩から腕を通り膝上まで垂れています。右掌の上に左掌を重ね、両手で五輪塔を持っていきます。弥勒菩薩は、釈迦が入滅し56億7千万年後にこの世に現れ、衆生を救済するとされます。
銘「四国阿波十四番 本尊弥勒并升 當邑庄 十二人名」



○半眼は眼を半分開くことです。
○天衣はシヨール状の衣です。
○五輪塔は下から上へ地水火風空と五層を重ねますが、本例では風空が一体化しています。
○阿波十四番は、現在の徳島市にある常楽寺です。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

今月の論語

礼を知らざれば
以て立つこと無きなり

礼を身につけなければ、ひとり立ち(自立)はできない。

今月の帰宅放送は、東原摩舎西溪校9年の梶原唯さんです

教育長コラム

ちよっとい話



子どもたちへ

ウィズコロナ

新型コロナウイルス感染症に対して、人類は必ず解決策を見出します。でも、それまでの間、ウィルスを回避しなくてはなりません。そのために、少し分かってきたことがあるのです。

学校は、洗剤を入れた水を使って丁寧に拭き掃除をするといった、十分に睡眠をとって、十分に食べるといういいみたいそして、マスクと手洗い

それでも、感染することはあるかもでも、感染しても心配しないですつかり治るまでお休みしたら学校において

先生方も友達も 待っているよ 優しく両手を広げて

だつて、
誰にでもありえることだもの
明日は、自分かもしれないもの
やさしく支えあいましょう

教育長 田原優子

市民文芸

◆この暑さ マスクなしでも 山里は
おいしい空気ひとりじめでき
梶原恵美子

◆両チームに勝たせてあげたい 甲子園
負けるが勝ちとはとても言えない
浦野 嘉恵

◆朝曇る庭に鳴く 蟬陽のさせば
勢い増しつ つ声のかしまし
川浪 信子

◆美しい心の音色 奏でたい
過去は消せない 分かっていても
野崎 隆幸

◆月天心 わが町 照らす その昔
蕪村の詠みし里を 想いぬ
尾形 節子

◆毬栗のころが かつてある 廃墟かな
武富 律子

◆喜寿傘 寿米 寿もをりて 盆の寺
中嶋 清子

◆幾山も越えて 木曾路の雲の峰
富樫 明美

◆甘酒に 玉子落とすは 祖母の味
本村 則子

◆針のなき 時計 極暑の刻を読む
おおやはな

◆納税で 古里うるおう 新時代
古賀 弘子

◆通園バス 孫が見送る デイケア
猪ノ口 昭子

◆花が咲き 散歩コースを 変えられる
松下 修

◆差別なし 世界平和は 笑いから
中尾 和弘

◆娘に繋ぐ 襷の色が 決まらない
三塩不二子

川柳 《多久川柳会 互選》

俳句 《互選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》